様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：２１３０１
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１７６０７

研究課題名（和文）新卒訪問看護師育成に向けた看護学生のキャリア教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a career education program for nursing students to promote the training of new graduate visiting nurses

研究代表者
千葉　洋子（Chiba, Yoko）

宮城大学・看護学群・助教

研究者番号：７０７５７８５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円

研究成果の概要（和文）：新卒訪問看護師育成を促進するために、キャリア選択時の看護学生の不安軽減に資する教育プログラムが必要である。その一資料として、本研究では新卒訪問看護師が「在宅療養者および家族の意思や生活、病状、医療を統合したケアを創造する力」を獲得するプロセスを明らかにすることを目的にした。新卒訪問看護師9名のインタビューからケアを創造する力の変遷と取り組みについて語られている記述を抽出し、コード、サブカテゴリ、カテゴリを生成した。その結果、新卒訪問看護師が4つの取り組みを状況や自己の課題に応じて使い分けながら6つの力の変遷を進めることで、ケアを創造する力の獲得に至っていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
地域の医療提供体制の偏在を背景に在宅医療や訪問看護の需要が増しており、訪問看護師の質の向上と量的拡大が喫緊の課題である中、新卒訪問看護師の教育体制の整備が全国的に求められている。看護学生が訪問看護事業所への入職に不安を抱く一要因として、新卒訪問看護師の成長プロセスの研究蓄積が乏しいことが挙げられる。本研究で、新卒訪問看護師の生活と医療を統合して看護を創造する力の獲得段階と獲得方法について明らかにしたことは、訪問看護事業所への入職を検討する際の看護学生の不安軽減に寄与しうると考える。

研究成果の概要（英文）：In order to promote the training of new graduate visiting nurses, an educational program that contributes to alleviating the anxiety of nursing students when choosing a career is necessary. As part of this research, the purpose of this study was to clarify the process by which new graduate visiting nurses acquire ``the ability to create care that integrates the intentions, lifestyles, medical conditions, and medical care of home patients and their families''. From the results of interviews with 9 new graduate visiting nurses, we extracted the descriptions of changes in the power to create care and how to acquire them, and generated codes, subcategories, and categories. As a result, it was clarified that new graduate visiting nurses use 4 acquisition methods according to their situation and ability, advance 6 acquisition stages, and acquire the ability to create care.

研究分野：看護学、在宅看護学、地域看護学

キーワード：新卒訪問看護師　成長プロセス　看護学生　キャリア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

わが国は，超高齢化の加速と人口減少，地域の医療提供体制の偏在や格差を背景に，在宅医療や訪問看護の需要が増しており，訪問看護師の質の向上と量的拡大が喫緊の課題である。これに寄与する一方策として，医療施設での勤務を経ずに，新卒で訪問看護事業所に入職する看護師(以下，新卒訪問看護師)の重要性が示され，組織的な育成に取り組み始めているが，見込みより新卒訪問看護師数が少ない現状である[1]。看護大学におけるキャリア支援では，看護師は病院に就職することを前提とするキャリア支援が大半を占める。竹本はキャリア支援が将来展望に対する意識や学習意欲を高めることへの効果を示唆しており，大学での学習進度，大学生のキャリア発達課題等を鑑みながらプログラム構築に取り組む必要があると述べている[2]。

新卒訪問看護師数が少ない背景として，就職までの課題（病院就職のイメージ，情報不足），成長・定着の課題（採用・教育体制不足，当時のつながり不足）が挙げられる[1]。そして，これらの課題の一つの要因として考えられるのが，新卒訪問看護師の成長プロセスに関する研究蓄積が乏しいことである。

特に「生活者としての療養者をよく知り，先を見通しつつ，療養者の生活に即したケアを共に考えるプロセスを通して，療養者の状態やケア，関わり方を決定し，療養者に最適なケアを実施する」能力が訪問看護師には必要とされており[3]，その基盤には「在宅療養者および家族の意思や生活，病状，医療を統合したケアを創造する力」が求められる。新卒訪問看護師がその力を獲得するプロセスを明らかにすることは，新卒訪問看護師の教育プログラム開発に寄与するだけでなく，学生が新卒訪問看護師としてのキャリアを展望する一助となりうると考える。

２．研究の目的

本研究の目的は，看護学生のキャリア選択時の不安軽減に資する教育プログラムを開発する一資料として，新卒訪問看護師が「在宅療養者および家族の意思や生活，病状，医療を統合したケアを創造する力」を獲得するプロセスを明らかにすることである。

３．研究の方法

(1)　研究デザイン

質的記述的研究

(2)　操作的定義

①　新卒訪問看護師[4]

看護基礎教育機関を卒業したのち，病棟看護の経験をせずに訪問看護事業所に就職し，訪問看護に従事している看護師

②　生活者[3][5][6][7]

固有の生活習慣，生活リズム，価値観，人生観をもち，家族や社会資源サービス等の支援者と関わりながら，日常の暮らしをおくる者

③　ケアを創造する[3][4][8]

利用者・家族に必要な医療処置・看護ケアを判断し，利用者・家族の生活と希望を踏まえてケアを組み立て，利用者・家族に最適な方法を編み出すこと

④　在宅療養者および家族の意思や生活，病状，医療を統合したケアを創造する力（以下，ケアを創造する力）[3][5][8][9]

日々の訪問看護実践における，利用者および家族の観察や推察，意思の確認を通して，固有の生活習慣，生活リズム，価値観，人生観，家族関係，介護力，経済状況，社会資源サービスの利用状況を把握し，病状や身体状況と照らし合わせて，利用者および家族の意思に即したケアを創造する力

(3)　データ収集

①　対象者

経験 1 年以上 5 年未満で要介護高齢者を受け持った経験がある新卒訪問看護師 9 名

②　方法

対面もしくはオンラインでの 1 対 1 の半構造化面接調査

③　内容

- 訪問看護師に関する基本情報
  年齢，経験年数，最終学歴
- 要介護高齢者の事例に関する基本情報
  年齢，診断名，家族構成，同居者の有無と続柄，主介護者，キーパーソン
  利用しているサービス，在宅診療医の利用の有無，訪問看護の利用・頻度
  - 生活と医療を統合してケアを創造することに関する事項
  - 生活と医療を統合してケアを創造する上で大切にしていること
  - 生活と医療を統合してケアを創造する上で大切にしていることの具体的な実践内容（要介護高齢者の直近の訪問事例）

・　生活と医療を統合してケアを創造することができるようになるまでの自身の変化や成長のきっかけ等

(4)　データ分析

IC レコーダーもしくは Zoom の録画機能を使用して録音した音声ファイルから逐語録を作成し，それを繰り返し読み，「生活習慣，生活リズム，価値観，家族関係等の把握方法・内容」「得られた情報の解釈方法・内容」「判断内容と創造したケア」「情報を把握する力やケアを創造する力の内容」「情報を把握する力やケアを創造する力の獲得時期・きっかけ・取り組み」について語られている記述の文脈を，意味の読み取れる単位ごとにコード化した。次に，新卒訪問看護師が「ケアを創造する力」を獲得するまでの力の変遷を示すコードと，獲得段階を進めるために新卒訪問看護師が行った取り組みを示すコードに分類し，時期に着目して，相違点・共通点の比較・分類をしながら，サブカテゴリ，カテゴリを生成した。

４．研究成果

(1)　分析結果

研究協力者の概要を表 1 に示す。

新卒訪問看護師の「ケアを創造する力」の変遷は，6 つのカテゴリ，22 のサブカテゴリ，78 のコードが抽出された。また，力の獲得に向けて新卒訪問看護師が行った取り組みは，4 つのカテゴリ，12 のサブカテゴリ，47 のコードが抽出された。以下，カテゴリを【　】で示す。

新卒訪問看護師は「ケアを創造する力」の獲得に至るまでに，【利用者・家族の希望に沿うための基盤を構築する】,【疾患と共に生活する利用者の全体像を捉える】,【医療と生活の両面から利用者の問題を捉える】,【利用者が療養する環境を整える】,【利用者の意向をケアに取り入れる】,【利用者・家族の状況に応じてケアを編み出す】という力の変遷を経ていた。そして、新卒訪問看護師は，【先輩から学ぶ】,【先輩に助力を求める】,【自己を振り返る】,【自己研鑽の機会をつくる】という 4 つの取り組みを，状況や自己の課題に応じて使い分けながら 6 つの力の変遷を進め，「ケアを創造する力」を獲得していた。

各カテゴリのサブカテゴリは表 2，表 3 の通り。

表 1　研究協力者の概要

研究協力者（ｲﾝﾀﾋﾞｭｰの年月）	ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ時の年齢	ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ時の経験年数	最終学歴
A（2020. 7 月）	20 歳代前半	1 年 4 か月目	4 年制大学
B（2020.10 月）	20 歳代後半	2 年 7 か月目	3 年制看護学校
C（2020.11 月）	20 歳代後半	1 年 8 か月目	大学院
D（2020.12 月）	20 歳代前半	1 年 9 か月目	4 年制大学
E（2021. 4 月）	20 歳代前半	1 年 1 か月目	4 年制大学
F（2021. 7 月）	20 歳代後半	3 年 4 か月目	4 年制大学
G（2021. 7 月）	20 歳代後半	3 年 4 か月目	4 年制大学
H（2021. 8 月）	20 歳代後半	3 年 5 か月目	4 年制大学
I（2021.10 月）	20 歳代後半	3 年 7 か月目	4 年制大学

表 2　新卒訪問看護師の「ケアを創造する力」の変遷

サブカテゴリ	カテゴリ
利用者に会って「どんな人か」を知る	利用者・家族の希望に沿うための基盤を構築する
利用者に受け入れてもらえるように振る舞う	
利用者の希望に沿うための時間を確保する	
利用者と家族の関係性に合った関わり方を見つける	
カルテやテキストに載っている利用者の基本情報とケア方法を覚える	疾患と共に生活する利用者の全体像を捉える
利用者の日々の生活に目を向ける	
利用者の治療内容や服薬管理状況を把握する	
室内を注視して利用者の生活の実態を把握する	
利用者のこれまでの生活を踏まえて人物像を把握する	
自宅で療養する利用者の心情を推察する	
利用者を支える家族の心情を推察する	
利用者の生活の変化から体調を類推する	医療と生活の両面から利用者の問題を捉える
医療的知識を使いながら利用者の病状を解釈する	
利用者の病状と生活を統合しながら問題を判断する	

家族が安心して利用者と過ごせる環境をつくる	利用者が療養する環境を整える
他職種と連携して利用者の生活を支える体制をつくる	
訪問前後の利用者の生活を踏まえてケアをアレンジする	利用者の意向をケアに取り入れる
利用者の希望を踏まえてケアを組み立てる	
利用者の生活に馴染みやすいケアを編み出す	利用者・家族の状況に応じてケアを編み出す
利用者のペースに合わせながらケアを変更する	
家族の状況に応じてケアを変更する	
家族の希望を実現する方法を吟味する	

表 3　「ケアを創造する力」の獲得に向けて新卒訪問看護師が行った取り組み

サブカテゴリ	カテゴリ
先輩に諭されることで自分の状況を知る	先輩から学ぶ
先輩の説明を受けてケアの根拠と方法を学ぶ	
先輩の一挙手一投足に注意を払って知見を広める	
先輩の言動を糸口にして自分の課題を整理する	先輩に助力を求める
先輩に相談をして自分に不足している知識・技術を補う	
事前に対処方法を先輩に確認をして訪問に備える	
自身を批判的に見直して自分の課題を認識する	自己を振り返る
事実を整理して自分の力量に向き合う	
利用者・家族の様子から自分の課題を認識する	
自分が知りたい情報を収集するための手立てを講じる	自己研鑽の機会をつくる
知見を応用する機会を見つけて実践を重ねる	
思考整理の機会をつくり自分で判断する習慣をつける	

(2)　今後の課題

本研究により，新卒訪問看護師が「ケアを創造する力」を獲得するプロセスとして，入職後 2 年間の力の変遷と，その力の変遷を進めるための取り組みを示す要素が明らかとなった。しかしながら，獲得プロセスを示す概念化には至っていないため，今後もカテゴリおよびサブカテゴリの精選に努める必要がある。

本研究結果は，看護学生が訪問看護事業所へ入職した場合の自身の成長プロセスを想定することや，訪問看護事業所で自己の成長を促進させる基盤を在学中に整える一資料になると考える。したがって，今回明らかとなった要素を基に，看護学生のキャリア選択時の不安軽減に資する教育プログラムの試案に取り組み，その効果を検証する必要があると考える。

文献

[1] 全国訪問看護事業協会. (2015). 新卒看護師のための訪問看護事業所就業促進プログラム開発に関する調査研究事業報告書. https://www.zenhokan.or.jp/new/new435/

[2] 竹本由香里.（2009）. 看護学生のキャリア発達支援に関する研究－キャリアセミナープログラムの構築に向けて－. 北日本看護学会誌, 12(1), 1-11.

[3] 仁科祐子，長江弘子，谷垣静子. (2019). 日本の訪問看護師の行う訪問看護実践における判断の概念分析. 日本看護科学会誌, 39, 74-81. https://doi:10.5630/jans.39.74

[4] 楢原理恵. (2018). 新卒訪問看護師を採用するために管理者が希望する方策. 日本在宅ケア学会誌, 21(2), 86-91.

[5] 長江弘子，吉本照子，辻村真由子，保坂和子. (2013). 自律的な新卒訪問看護師を育成する看護学基礎教育と現任教育とのシームレスな協働的継続教育の提案. 看護教育, 54(10), 920-926.

[6] 松坂由香里. (2004). 訪問看護サービスを利用する一人暮らし高齢者の生活感情に関する研究. 日本地域看護学会誌, 6(2), 86-92.

[7] 下村裕子，河口てる子，林優子，土方ふじ子，大池美也子，患者教育研究会. (2003). 看護が捉える「生活者」の視点－対象者理解と行動変容の「かぎ」－. 看護研究, 36(3), 199-211.

[8] 木下由美子. (2005). 実践者が考える訪問看護の専門性. 訪問看護と介護, 10(4), 318-325.

[9] 仁科祐子，谷垣静子，長江弘子，岡田麻里. (2021). 2 年以上の勤務経験を有する新卒訪問看護師における自律的判断の様相. 日本看護科学会誌, 41, 683-691. https://doi.org/10.5630/jans.41.683

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 千葉洋子
２．発表標題 看護基礎教育におけるキャリア支援に関する研究動向－新卒訪問看護師を視野に入れたキャリア支援に向けて－
３．学会等名 日本地域看護学会　第21回学術集会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関